

第4問

(2) 当社は製品 X を生産・販売し、実際総合原価計算を採用している。次の〔資料〕にもとづいて、下記の問に答えなさい。なお、原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分する方法として平均法を用いること。

〔資料〕

1. 当月生産データ

月初仕掛品量	1,000 kg(30%)
当月投入量	<u>12,000</u>
合計	13,000 kg
差引：正常減損量	500
月末仕掛品量	<u>1,500</u> (80%)
完成品量	<u>11,000</u> kg

(注) 原料はすべて工程の始点で投入し、()内は加工費の進捗度である。正常減損は工程の始点で発生し、正常減損の処理は度外視法によること。

2. 月初仕掛品の原料費は 790,000 円、当月の原料費は 8,585,000 円であった。

3. 月初仕掛品の加工費は 285,000 円、当月の加工費は 10,085,000 円であった。

問1 答案用紙の当月の製造原価明細書の()内に適切な数字を記入しなさい。

問2 当月の月初製品棚卸高は 1,155,000 円、月末製品棚卸高は 835,000 円であった。当月の売上原価を計算しなさい。